

研究者リーダーシップ・プログラム

「第8回 プログラムを振り返って（プログラム総括）」参加レポート

本プログラムに参加する中で、普段の業務や研究活動ではなかなか得ることのできない、多様な立場の研究者や職員の方々との対話の機会に恵まれ、大変貴重な学びを得ることができました。特に、キャリア形成やライフワークバランスに関する課題は、個人の努力だけでは解決が難しい面が多く、制度や環境の整備が重要であることを改めて認識しました。一方で、日々の小さな工夫や試みを積み重ねることで、状況を少しずつ改善していくことも可能であるという希望を感じました。

私自身、この半年間で「時間の使い方を見直す」という課題に取り組み、研究時間を確保するためのスケジュール管理を実践しました。しかし、突発的な業務や予定外の対応が重なると計画が崩れてしまうことも多く、柔軟性と持続可能な調整力の重要性を痛感しました。その一方で、他の参加者の取り組みを伺い、必ずしも「完璧」を求めるのではなく、可能な範囲で継続的に取り組む姿勢が大切であることに気づかされました。

また、ディスカッションの中で話題となった育休や介護、ダブルケアといったライフイベントがキャリア形成に与える影響についても考えさせられました。これまで個人的な課題と捉えていたことが、組織や社会全体として支えるべき重要なテーマであると理解し、今後は周囲の状況にも目を向け、支え合いながら働ける環境づくりに関心を持ち続けたいと思います。

本プログラムで得た気づきを、今後のキャリアや研究活動に生かし、持続可能な働き方を模索していきたいと考えています。

(李乃琦・名古屋大学高等研究院/人文学研究科 YLC 特任助教)